

2013/07/22 「平成25年度 大学評価フォーラム」 GS 1

「学生参画型FD活動を問い直す」 —学生参画の「新たな形」をさがして—

TOYO UNIVERSITY

The basis of all learning lies in philosophy

東洋大学 大学院教育学専攻
関東圏FD学生連絡会 前学生代表

曽根 健吾

話題提供の内容 ～学生の視点で～

1. なぜ学生参画型FD活動に関わったのか
2. 東洋大学での学生参画型FD活動
3. 学生参画型FD活動に関与して、何が変わったのか
4. 学生参画型FD活動の課題
課題の解決に向けて



1. なぜ学生参画型FD活動 に関わったのか

- ・私は、大学に「**ガッカリ**」しました。
→授業、雰囲気、周りの学生・・・
- ・FDに参画したきっかけは、「教員」からの声かけと、他大学の学生からの「**刺激**」。
- ・学生みんなが**主体的に学ぶ大学**にしたいという思いが芽生えた。

東洋大学のある授業にて(許可を受けて撮影 ※吹き出しも、許可を受けています)

スクリーン

見にくい板書

顔が下向き

何となく暗い空間

固定された机といす



「授業評価アンケート」はあるけれど

学生の声を聞く、**代表的**な取り組み

「学生による授業評価アンケート」

- ・回答が活かされたのか、**実感**がない。
- ・授業ごとの結果は、多くが**非公表**。
- ・「アンケートで信頼している学生とは、個々の具体的な学生ではなく、**統計学データとして処理された**抽象的な学生」(圓月, 2012)



私は「がっかり」で終わらなかった！

・ 東洋大学で「めざしたい」と思ったこと

- ・ 学生の「学び」への意識を高めたい。
- ・ 東洋大学生であることに、すべての学生が誇りをもてる大学にしたい。
- ・ そのために、学生の「生の声」を、教育改善に活かすことを当たり前にしたい。

2. 東洋大学での学生参画型FD活動

• 東洋大学学内での取り組み

①「学生FDスタッフ」の立ち上げ(2010)

②教職員(FD推進センター)との連携
の確立(2010)

③主な取り組み

先生インタビュー、しゃべり場の開催

教員研修会での報告、ニュースの作成

先生インタビュー（2010～）



TOYO UNIVERSITY

学生の生の声を集めるしゃべり場 (2010～2012)

学生FDスタッフ

副学長



TOYO UNIVERSITY

3. 活動に関与して、何が変わったか

- 学内の意識が、少しずつ変わった。
 - 学生の声を、FD活動に活かそうという動きが活発になった。
- 教職員の理解者が増えた。
- 現在、東洋大学では学生参画の仕組みづくりが、少しずつ進展中。



4. 学生参画型F D活動の課題

- ① 学生の認知度が不足している。
→関心ある学生は、ごくわずか。
 - ② 大規模大学では、成果を出すことは難しく、まだまだ試行錯誤中。
(東洋大学は、学生数約30,000人)
- ★ 取り組む教職員や学生の自己満足で終わらない。



課題①の解決に向けて

◆「学生の主体的な学び」の確立をめざすべき

- ・学生参画型FD活動は、学生と教員双方への働きかけ(アクション)が可能。
- ・学びに関する、学生の「生の声」をFDに取り入れることに、学生参画FD型活動の大きな意義がある。



課題②の解決に向けて

◆ 学生参画を「質保証」に結びつける

- ・教育の改善に結びつかなければ、意味がない。
- ・しかし、学生には質保証は重すぎる。
- ・継続的に取り組み、質保証に結びつけるためには学内での制度化、組織化は不可欠である。



では、どう制度・組織化するか？

- ・岡山大学方式でもなく、立命館大学方式でもない、「第3の方式」へ

- 岡山大学型：学部代表学生委員会

- 立命館大学型：やる気のある学生募集型

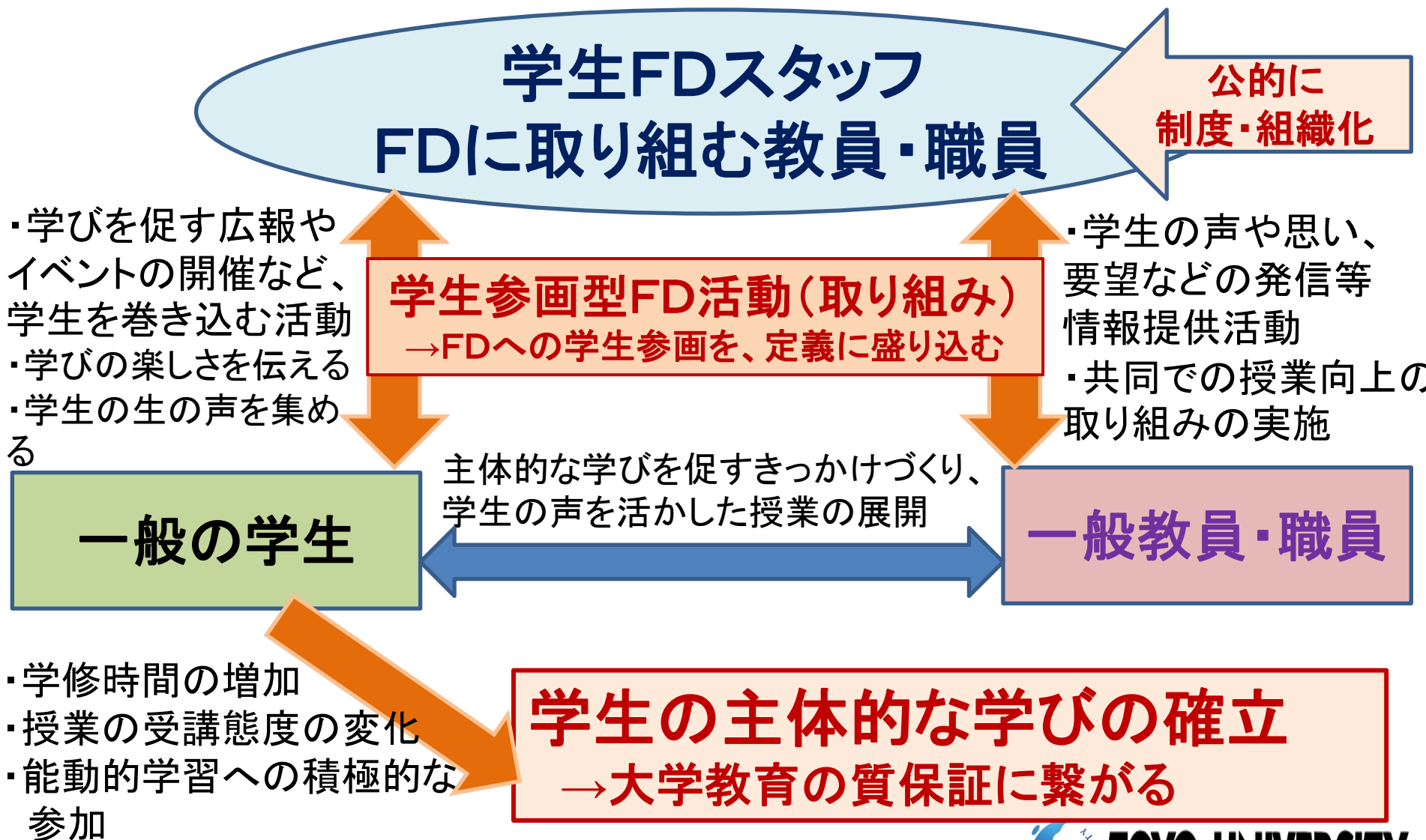
- 大学組織の中に学生参画型FD活動を制度化し、学生は常に公募する。

そして、着実に改善の成果を出す。



TOYO UNIVERSITY

質保証に結びつけるためのモデル私案



ご清聴、ありがとうございました。

**ご不明な点などは、
遠慮無くご質問ください。**



関東圏FD学生連絡会マスコット
おじかちゃんとおめじかちゃん

曾根 健吾

soneken-ace@crest.ocn.ne.jp



TOYO UNIVERSITY